

日本の歴史 7

情報サービス課 稲垣 宏行

『知られざる日本:山村の語る歴史世界』 白水智 著 (日本放送出版協会) 294p.

山村に対して私たちが持つイメージといえば、地形的な観点を優先してか、閉鎖的で貧しい場所というのが一般的かもしれませんが。山間部の人里に対するそのような見方は、平安時代からの傾向であったと言われています。しかし著者は、そういった見方は間違いだと主張しています。例えば江戸時代、山村では林業・狩猟・山菜採りなど、多彩な産業が存在していたといいます。また、平地との交流も盛んに行われていましたし、資源も豊富にあったことから、飢饉が起こった際の避難場所にもされていた様です。

その山村がなぜ閉鎖的で貧しいと言われるようになったのでしょうか。著者の民俗学的視点と山村の生活文化を綴った断片的資料から、その真実が見えてくることでしょう。

210.04-Shi

『戦国時代の終焉:「北条の夢」と秀吉の天下統一』 齋藤慎一 著 (中央公論新社) iv, 234p.

早雲を祖として、関東統一の夢を持ち続けていた北条氏。その北条氏も、氏政・氏直の時代に豊臣秀吉によって滅ぼされてしまいました。巧妙な政治力で勢力均衡が保たれていた織田氏・徳川氏連合との関係や佐竹氏・宇都宮氏ら関東諸勢力との熾烈な戦いなど、彼らの行く先には苦難がありました。しかし、秀吉と小田原の戦いで一戦を交えるまでは、関東統一は全体的な流れから見て着実に進んでいたといえます。そうした北条氏がなぜ秀吉に敗れることになってしまったのでしょうか。

北条家が滅亡に至るまでの間、くり返された戦の裏側で蠢く、関東諸勢力や徳川家康らの思惑。劇的に変化していく戦国大名たちの趨勢。北条氏はどのようにして度重なる困難な状況を巻き返していったのでしょうか。本書は戦国時代末期を舞台に、北条氏を初めとする戦国大名の生き様を描いています。

210.48-Sai

『アメリカの対日占領政策とその影響:日本の政治・社会の転換』

マーク・カプリオ, 杉田米行 編著 (明石書店) 301p.

1945年から約7年にわたって日本に駐留したアメリカの占領軍。彼らは日本の民主化のために様々な改革を行いました。食糧政策、女性労働改革、麻薬の取締りなど、占領軍の政策は多岐にわたっていました。このようなアメリカの占領政策が、戦後間もない日本に結果として何をもたらしたのでしょうか。占領軍は日本の民主化には意欲的でしたが、打ち出した政策全てが日本の国情に適合していたわけではありませんでした。女性の労働権の一部阻害、覚醒剤の蔓延、在日韓国・朝鮮人への配慮の欠如など、民主化へと導くはずの政策が、かえってその後の日本に不利益な結果をもたらしているという指摘も何点か見られます。

本書は、占領軍が行った主な政策を取りあげ、それらが日本にどのような影響を及ぼしたのかを歴史学や法学を専門とする8人の学者が分析した論文集です。

210.76-Cap



いながき ひろゆき (係)